

奮闘の日々
20代のフレッシュパーソン

岩部建設 建築部 工事長

なかにし・けんた
中西 健太さん

総合建設業の岩部建設（本社愛知県武豊町西門74）は、大正14年（1926年）の創業。本社のほか、名古屋、豊田、半田に営業拠点をもち、地域を舞台に建設という「ものづくりの仕事」に全力で取り組んでいる。建築部の工事長を務めるのが中西健太さん（27）。現在、大府市内でマンション建設工事に携わっている。

中西さんは、愛知工業大学工学部建築学科卒業の入社6年目。「大学内企業展で当社を知り、また、画期的な建築技術である再生建築に興味を持ったことが入社のも動機」と話す。

入社時研修を受け、本社近くの現場に配属された。「最初は何をしたらよいかわからず、現場の掃除をするだけだった」と振り返る。上司からは図面のことや工事写真の撮り方など、現場の職人さんからもさまざまなことを教えてもらいながら、仕事の中身を覚えた。2級建築士の資格は持っていたが、入社後に1級建築施工管理技士の資格を取り、工事長となった。



「早く現場所長になれるよう努めている」と話す中西さん

今回の現場は、2人で監督する。設計事務所からの図面をチェックし、それをもとに作った大まかな施工図を見ながら、さらに検査・修正し、現場の各工程の専門工事業者に渡す施工図面を作り上げている。

「毎日が大変なことばかり」と苦笑い。自分が作った図面に問題があると、実際の現場では施工できないケースがある。また、段取りが悪いと命取り。一つ狂ってしまうと、すべての施工がストップするだけでなく、工期にも影響が出てくる。「今のところは、ほぼ修正できる範囲だが、油断はできない」と気を引き締める。

先輩に受けた「職人とのコミュニケーション、現場の空気が悪いといい建物ができないが、だからといって言いなりになつてはいけない」とのアドバイスを守っている。将来は「一人で所長として現場をやり遂げたい」と目標を掲げる。現状は図面・工程、品質、安全面の管理が中心。お金の流れである原価管理ができるようになれば実現する。

「この仕事が自分に合っている」という中西さん。仕事上での付き合いもあり、1年半くらい前からゴルフを始めた。練習場にはあまり行けていないが、コースに出る機会が増えている。「110は切りたいですわ」と、趣味でも目標の達成に意欲を燃やしている。